

私たちは、忘れない。
Forever remembered.

東日本大震災から5年 名古屋グランパスのホーム開幕戦試合会場で 復興支援パネル展&グランパス現役・元選手による募金活動



赤十字親善大使グランパスくんも応援にかけつけてくれました。

西村弘司選手会長(右)をはじめ
元選手が多数参加元選手の中村直志さん(右)と
アイドルグループ「dela」メンバーの池永百合さん

CONTENTS

クローズアップ

トピックス

クロスサポーターに聞く!

東日本大震災から5年 私たちは、忘れない。

浜松・東三河フェニックスとパートナーシップ協定を締結！
性暴力救援センター「日赤なごや なごみ」がオープン
「赤十字7原則エッセイコンテスト」愛知から最優秀賞
平成27年度 一般社団法人中京馬主協会助成事業

大府市役所 生活安全課 危機管理室

浜松・東三河フェニックスとパートナーシップ協定を締結！

日本赤十字社愛知県支部は、3月10日(木)に静岡県浜松市と愛知県東三河地区をホームタウンとするプロバスケットチームの「浜松・東三河フェニックス」とパートナーシップ協定を締結しました。

これまで同チームとは、イベントでの協働を行ってきましたが、今後はさらなる広報的な協力や、選手が参加するAED講習などを行い、スポーツを通じた社会貢献活動を推進していきます。

愛知県支部では、地元のスポーツチームとコラボレーションをした取り組みをすすめています。これまでにサッカーの名古屋グランパス、フットサルの名古屋オーシャンズとパートナーシップ協定を締結しており、今回は3チーム目となります。

今後の地元スポーツチームとのコラボ企画にご期待ください!

かたい握手を交わす浜武森生代表取締役社長(左)と
愛知県支部の大島久雄事務局長

性暴力救援センター「日赤なごや なごみ」がオープン

1月5日(火)に、性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」が名古屋第二赤十字病院内に開設されました。同センターは、性暴力被害者に寄り添い、本人の意思とペースを尊重しながら被害直後から中長期・回復まで継続した支援を行います。産婦人科医療、相談・カウンセリングによる心理的支援、捜査関連の支援、法的支援などの総合的支援を可能な限り1か所で提供することで、被害の潜在化を防ぎ被害によるダメージからより早い回復につなげます。

これにより、性暴力被害の影響が世代を超えて連鎖することを断ち切り、病院を拠点に人々の健康と福祉の向上に寄与できる総合支援システムを構築することを目指します。

「なごみ」では、研修を受けた支援員(アドボケーター)20名と性暴力被害者支援専門看護師22名が常時2人体制で24時間のホットラインに対応しています。

同院の片岡笑美子副院長兼看護部長は「被害者は心身ともに傷つき、誰にも相談できず苦しんでいます。一人でも多くの方が安心して相談できるワンストップ支援センターを目指します」と話しています。



24時間体制で被害を受けた方に寄り添います

ひとりで悩まずに、「なごみ」にご相談ください

性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」24時間ホットライン TEL. (052) 832-0753



クロスサポーターに 聞く! No.17 大府市役所 生活安全課 危機管理室



日本赤十字社愛知県支部とタイアップ様々な活動に取り組む企業や団体、人(クロスサポーター)を紹介します。
今回のクロスサポは、大府市役所生活安全課 危機管理室です。

赤十字は、災害に備えて慣れない避難所生活を少しでも快適に過ごすことができるように、毛布やタオルケット、安眠セットなどを用意しています。
愛知県支部では、平成12年の東海豪雨の際に、救援物資を必要とされる場所に迅速に届けことができなかったという教訓から、それ以降市町村のご協力のもと、県内8ヶ所に拠点倉庫を設けて救援物資の配備を進めています。

今回は、こうした物資を備蓄している赤十字拠点倉庫の中でも、収容能力の高い大府市の倉庫についてご紹介します。

災害時の救援物資のターミナル倉庫を設置

大府市は、平成27年2月に市内初の災害対策用の倉庫を設置しました。「この倉庫の主目的は、災害時に必要になる食糧や資材を常時備蓄しておくためだけでなく、災害が起きた時に日本全国から届く支援物資を一旦この倉庫に集約し、必要な避難所に振り分けていく、いわば救援物資のターミナル機能を果たすための倉庫です」と大府市の防災担当、鈴置純さん。

倉庫を建築するきっかけは、5年前の東日本大震災からの教訓もありましたが、大きな要因になったのは一昨年に愛知県が発表した南海トラフ地震の被害想定でした。「今までは災害が起きた時には市民体育館の施設を作業スペースにすることを計画していましたが、南海トラフの被害想定人数が予想以上に多く、これは専用の施設が必要だということになり、設置することになりました。」

大府市生活安全課危機管理室の
鈴置純さん

大府市の防災・減災対応

災害に備えた倉庫の整備だけではなく、市民の方々に対して防災・減災への意識啓発を行っている大府市。同市は、沿岸部と違い津波被害の想定はありませんが、地震の際は揺れにより大きな被害が出ることが予想されます。また、東海豪雨の時には川が氾濫し、甚大な被害が出ました。

鈴置さんは、「市民の方々には、災害があった時にはまずはなんとか無事でいてほしいという想いで、家の耐震や家具の転倒防止などの啓発をしています。この倉庫も市民の皆さんをはじめ、近隣の市町村の方々が生き残った後によりよく活用できるものです」と、日頃からの備えの大切さをお話くださいました。

赤十字の支援物資保管に協力

「この倉庫は、大規模な地震だけではなく、局所的な災害時にも活用されることが期待されています。急な災害対応に備えるために一定量の救援物資の備蓄は必要です。大府市では避難所の毛布などの充実を検討していた際に、赤十字が広い範囲で被害が発生した時に、すぐに物資を届けるための拠点になる倉庫を探していることを聞き、私たちの倉庫を使っていただけたら、と思い声をかけさせていただきました」と、鈴置さん。赤十字にとっては、とてもありがたい申し出であったため、今回の物資配備につながりました。



大府市の倉庫へ災害救援用毛布の搬入

「赤十字7原則エッセイコンテスト」愛知から最優秀賞

2015年7月1日～11月30日まで日本赤十字社と日本赤十字国際人道研究センターの共催により開催された「赤十字基本原則採択50周年記念 赤十字7原則エッセイコンテスト」には、全国の職員やボランティア、青少年赤十字指導者、赤十字看護大学・看護専門学校の学生などから計244件の作品の応募がありました。

応募作品の中から審査で選ばれた20作品のうち「ポエム・ツイートコース」で最優秀賞を受賞したのは、尾張赤十字救急奉仕団に所属する寺倉鉄二さんの「あたしの中の赤十字」。寺倉さんは受賞にあたり「今回の作品は日頃の赤十字活動を振り返り、頭に思い浮かんだことをそのまま作品に落とし込みました。今後も奉仕団員として7原則にもとづいた活動をしていきたい」と話しました。

また、「エッセイコース」でも日本赤十字豊田看護大学の学生、小倉采佳さんと濱美砂さんの2名が入賞しました。



最優秀賞を受賞した寺倉鉄二さん(左)

入賞者作品詳細はこちらからご覧いただけます。》》 http://www.jrc.ac.jp/ihs/essaycontest_award.html

平成27年度 一般社団法人中京馬主協会助成事業

毎年、一般社団法人中京馬主協会さまの助成事業により、名古屋第一赤十字病院および名古屋第二赤十字病院に医療機器の整備をさせていただいております。

この助成事業は、馬主の皆さまが「自分たちの手で、目に見える形で社会福祉に貢献したい」と始められたものです。

平成27年度は、次の通り整備することができました。心より感謝申し上げます。馬主の皆さまの想いとご厚意に応えられるよう、両病院で有効に活用させていただきます。

名古屋第一赤十字病院 電動油圧手術台一式

この手術台は全科手術に対応できます。特に患者さんの身体に負担の少ない内視鏡手術においては横転角度を左右35度まで設定でき、最適な環境で手術施行が可能です。
本助成により電動油圧手術台を更新でき、毎年7000件を超える手術に加え、増加する高度な術式にも安全に対応していくことができます。



名古屋第二赤十字病院 全自動尿分析システム

これまでの尿分析システムに比べ精度と解析能力が進化し、カラー液晶タッチパネルの採用などにより操作性も向上しています。また高速処理能力を持つため、検査結果報告の迅速化につながります。



クロサポ! 特別編 No.4

名古屋グランパス

矢田旭 選手
●背番号:20 ●ポジション:MF ●出身地:三重県

赤十字のイメージは?

被災地の復興支援をサポートしているイメージがあります。
クラブとして赤十字さんと様々な活動をさせていただいていますが、個人的にも被災地支援など、これまで以上に協力したいと思います!

今年の抱負は?

ゴール・アシストなどの目に見える結果にこだわり、チームに貢献したい!!

名古屋オーシャンズ

齋藤功一 選手
●背番号:18 ●ポジション:FIXO/ALA ●出身地:愛知県津島市

赤十字を通じてどんな活動がしたい?

協力ができることがあれば全てしたいと思っていますが、僕個人として直接関わられる献血活動には、積極的に協力していきたいです!

今年の抱負は?

まだまだ試合に出場できる機会が少ないので、レギュラーとして定着できるように普段の練習から全力で頑張っていきたいと思っています。

INFORMATION

インフォメーション

●5月は赤十字運動月間です!

5月は、赤十字の創設者アンリー・デュナンの生誕や日本赤十字社の創設記念などゆかりの多い月であるため、“赤十字運動月間”として県民の皆さまに、より赤十字を知っていただく活動を行います。

県内各地で赤十字奉仕団による一斉キャンペーンのほか、テレビ搭などでライトアップイベントを行います。イベントの詳細はホームページをご確認ください。

●8月日赤ふれあい祭り&看護フェスティバル開催!

毎年恒例となった、8月日赤ふれあい祭り&看護フェスティバルが、今年は5月21日(土)に名古屋第二赤十字病院で開催されます。

「こころからだにエネルギーチャージ」を合言葉に、子どもから大人まで楽しめるイベントを企画しています。参加は無料!ぜひご家族やお友達を誘って遊びにお越しください。

日 時:平成28年5月21日(土) 10:00~15:00

場 所:名古屋第二赤十字病院(名古屋市中区妙見町2-9)

●日本赤十字社愛知県支部 採用情報

日本赤十字社愛知県支部事務局、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、愛知県赤十字血液センターおよび日本赤十字豊田看護大学で勤務する事務系(総合職)の職員を募集します。

応募資格:平成29年3月に4年制大学または大学院を卒業見込みの方

書類受付:平成28年4月12日(火)~5月9日(月)必着

詳しくは日本赤十字社愛知県支部ホームページ採用画面から。まずはマイナビ2017日本赤十字社にエントリーを!

日 時:平成28年5月21日(土) 10:00開始(講演会時間はホームページで発表)

場 所:日本赤十字豊田看護大学(豊田市白山町七曲12番33)

講演会:「特別養子縁組の現状とアタッチメント形成の重要性」

講 師:萬屋 育子 氏(NPO法人CAPNA 理事長)(入場無料)

ボランティアリレー!

このコーナーでは、ボランティアとして活躍する奉仕団をリレー方式で紹介していきます。

豊田市赤十字奉仕団

●活動紹介

救急法の講習会や災害時の義援金・救済金の募集活動、豊田献血ルームでの啓発活動のほか、愛知少年院後援会や地域から依頼される防災学習など幅広く活動を行っています!毎年、日本赤十字豊田看護大学で行われる大学祭にも参加しており、今年も5月21日(土)に炊き出し体験を行います。

●私たちのイチオシポイント!

豊田市赤十字奉仕団は、今年度50周年を迎えます。団員は「お役に立ちたい」という優しい気持ちで行事に取り組んでおり、年齢を忘れて積極的に活動しています。

今回は岡崎市赤十字奉仕団体へバトンタッチ!

岡崎市は豊田市の南隣に位置する街です。交流は平成20年8月の大雨災害の時に災害復旧支援のお手伝いに行かせていただいたことから始まりました!今後、何か一緒に活動ができたらと思います。よろしくお願いします。

豊田市赤十字奉仕団 小澤 多美子 委員長

岡崎市赤十字奉仕団 新海 利代 委員長

ご協力感謝申し上げます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

●株式会社ワークスジャパン 様

赤十字事業は、社員(会員)のみならずからの年間500円以上の「社費(会費)」と、一般の方から寄せられる「寄付金」によって支えられています。赤十字の活動資金にご協力ください。

郵便振替口座 00860-1-732 日本赤十字社愛知県支部

郵便局備え付けの払込取扱票でお手続きください。ご不明な点は日本赤十字社愛知県支部事務局 企画振興部赤十字社員課まで。お問合わせ 052-971-1596(直通)

日赤あいち

発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/平成28年4月1日

〒461-8561 名古屋市中区白壁1-50 TEL052-971-1591(代表)

ホームページで 日赤愛知

www.aichi.jrc.or.jp

検索

日本赤十字社の復興支援活動

かつて日本から支援を受けた途上国を含む海外100の赤十字およびクウェート政府よりお寄せいただいた「海外救援金」は、約1,002億円。日本赤十字社は、こうした世界中からの善意をもとに、6つの分野で様々な支援活動を行ってきました。

生活再建

●生活家電セットを寄贈 133,183世帯

●断熱シートなど冬場の寒さ対策 729カ所/137,438点

●コミュニティ・バスの運行支援 宮城県南三陸町と福島県会津若松市で9便/日

●その他 「こころのケア」「健康教室」「ノルディックウォーキング」など、様々な活動を継続中

教育支援

●屋内遊び場「赤十字すまいるばーく」を開催 86,584人来場

●こども園などの建設 8施設 定員 440人

●仮設体育館の建設 3校 児童・生徒 1,088人

●サマーキャンプ in北海道 20回 5,788人

福祉サービス

●公営の共同住宅などを建築 9カ所 798戸

●福祉車両などを寄贈 207施設 338台

●介護用ベッドの寄贈 161施設 959台

●仮設グループホームに家電や家具を寄贈 62施設 2,239点

医療支援

●気仙沼市立本吉病院へのサポート 年間外来患者23,724人(2011年)

●女川町地域医療センターの再建 年間外来患者48,549人(2011年)

●石巻医療圏の再構築 年間外来患者298,722人(2011年)

●町立南三陸病院・総合ケアセンター南三陸建設

原発事故対応

●病院に検査機器を整備 福島県立医科大学附属病院

●食品放射能測定機器(バクレルモニター) 109台

●原子力災害に関する情報発信

災害対応能力強化

●通信指令車の整備など、日本赤十字社の救護力を向上

●防災倉庫の寄贈 27市町 432カ所

義援金受付延長のお知らせ

日本赤十字社は、東日本大震災義援金の受付期間を1年間延長することを決定いたしました。引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願いします。

延長期間

平成28年4月1日
~平成29年3月31日

●受付状況

34億1,863万9,496円(平成28年3月11日現在)

※愛知県内の皆さまからお寄せいただいた義援金の受付状況

3,369億6,611万3,828円(平成28年3月11日現在)

※日本赤十字社で受け付けた義援金の合計額です。

●送金・配分状況

3,731億2,079万5,436円(平成26年7月7日現在)

各都道県に設置された「義援金配分委員会」への送金状況

※日本赤十字社 並びに中央共同募金会は、各県に設置された義援金配分委員会からの依頼により合同で義援金を送金しています。上記金額は両団体からの送金合計です。

被災市町村への送金状況および配分対象者への配分状況は、内閣府ウェブページをご覧ください。

愛知県で開催した「震災から5年」のイベント

震災から5年の節目に、改めて当時を想起することで風化を防止し、国民の助け合い・防災・減災意識の向上を促進する「私たちは、忘れない。」~未来につなげる復興支援プロジェクト~を実施。愛知県内では、赤十字の行う復興支援や様々な取り組みを紹介しました。

復興支援パネル展

3月の1ヶ月間、県内9ヶ所で復興支援パネル展を開催しました。

来場者の中には、東北出身者や大切な人が被災された方も。会期中、多くの皆さまに、被災者の方のメッセージや復興の写真をじっくりご覧いただきました。

選手とともに募金活動

3月6日(日)、パートナーシップ協定を結ぶ名古屋グランパスのホーム開幕戦にブースを出展し、名古屋グランパスの選手たちとともに募金活動を行いました!

また、パネル展やオリジナルグッズの配布を行い、赤十字の復興支援活動をPRしました。

東北に応援メッセージ!

岩手、宮城、福島の3県に、職員をはじめ、JRC加盟校の子どもたちで寄せ書きフラッグに応援メッセージを書きました。

子どもたちは、東北に住む同世代の仲間を想い、一人ひとり丁寧にメッセージを書き込んでいました。

CLOSE UP

3.11

私たちは、忘れない。
Forever remembered.

クローズアップ

東日本大震災から5年

私たちは、忘れない。

日本赤十字社では、被災地の復興に向け、各国赤十字社から寄せられた海外救援金を活用して、さまざまな事業を行ってきました。

また、震災から5年の節目として、日本全国で「私たちは、忘れない。」~未来につなげる復興支援プロジェクト~を展開。愛知県内でも復興支援パネル展や名古屋グランパスの選手らと募金活動を行うなど、改めて赤十字の活動を紹介し、東北へ想いを馳せる1ヶ月となりました。